

「キャンパス・アジア」モニタリング委員会（第1回）議事要旨

1. 日 時 平成25年3月26日（火）15:00～17:00

2. 場 所 学術総合センター11階 1112会議室

3. 出席者

（委 員） 佐藤委員、田中委員、中島委員、二宮委員、平野委員、牟田委員、岡本委員、林委員

（採択プログラム代表者） 田口岡山大学教授、廣瀬一橋大学特任講師

（事務局） 野上機構長、武市研究開発部長、鈴木研究開発部評価研究主幹、児島評価事業部長、秦国際課長 外

4. 会議の概要

（1）委員会の運営について

はじめに、本委員会の正副委員長を選出した。また、本委員会の会議の公開にかかる申合せについて確認した。

（2）モニタリングの実施要項および自己分析等の諸様式について

「『キャンパス・アジア』モニタリングハンドブック」および関係する自己分析書等の様式について、基本的に案のとおり了承された。また、委員からの意見を踏まえて、必要な箇所については、副委員長等において修正することとなった。なお、本議題における委員からの主な意見は次のとおり。

- ・ モニタリングにおいて作成する英文の文書を用いて、今後、中韓側とのコミュニケーションを図ることを勘案すると、英文文書の作成にあたっては、用語の統一等に配慮する必要がある。
- ・ 訪問調査にあたっては、お互いの効率を高めるためにも質問事項や閲覧したい資料等を採択プログラム側へ事前に送付しておくことが必要である。
- ・ モニタリングの日程はタイトであるが、事実誤認や書面調査状況へのコメントを含めた、採択プログラム側からのフィードバックを採り入れる手順も必要である。
- ・ 単位互換の仕組みや実態については、質保証の視点から、優良事例としての妥当性の根拠を捉えていくことが重要であるため、自己分析書の記述に加えて、訪問調査での聴取も含めてより深く認識していくことが必要である。

（3）モニタリング委員会等の今後の予定について

事務局より、本委員会の今後の開催予定等について説明があった。

（4）モニタリング専門部会の編成等について

モニタリングの作業を担う専門部会の編成等について審議した。

以上